北小松用地視察・探勝会

里山学研究センター・博士研究員
太田　真人
龍谷大学法学部・教授　里山学研究センター・センター長
牛尾　洋也
龍谷大学法学部・教授　里山学研究センター・研究員
鈴木　龍也
龍谷大学理工学部・講師　里山学研究センター・研究員
中川　晃成
龍谷大学・名誉教授　研究フェロー　里山学研究センター・研究員
江南　和幸
京都女子大学・名誉教授　里山学研究センター・研究員
高桑　　進
京都菌類研究所・所長　里山学研究センター・研究員
山中　勝次

日時：2018年11月24日（土）　14：00～16：30
場所：滋賀県大津市　北小松用地

2018年10月14日（日）に行った里山学研究センター第5回研究会において、大津市の北小松用地問題について講演をしていただいた阪本寧男様を案内人に、北小松用地の視察・探勝会を11月24日（土）に行った。北小松用地とは、昭和63年に大阪市水道局が、水源地に対する市民啓発、水質保全のための自然保護の啓発を図ることなどを目的として琵琶湖周辺の山林を取得したが、不況などにより計画されていた緑地整備などが中止となり、手つかずのまま放置されていた状態となっている土地である。現在、問題として上がっているのは、大阪市が用地を転売することである。それによって開発が入るのではないかと地元の住民方が危惧されており、転売などを行う際には地元住民にも一度報告してほしいとの申請を行っておられる。その中で阪本先生は、北小松用地には数が減少している貴重な植物などが多く生息していることなどを訴えかけてこられた。

北小松用地はJR北小松駅から少し山を登った場所にあり、滝川の北側に隣接した面積61,169.8m^{2}の土地である。北側には比良げんき村というBBQや天体観測、子供たちが遊ぶアスレチックなどがある施設がある。北小松用地の一部にはフェンスがされており立ち入りができないように施してあった。阪本先生の案内の下、比良げんき村の近くから北小松用地内に入り

視察を行った。滝川の上流ではシカの足跡や何かの糞など生き物の痕跡が多く見られた。砂防ダムは土砂で埋まり、ダム下にも大きな岩などが転がっていた。また、砂防ダムから少し下流に向かった場所の左岸側は大きく削られており、断面からは大きな岩などが顔を覗かせていた。このことからこの地域は昔から大水などによって岩が運ばれていたことがわかる。高電線の配置してある場所は塔周辺だけを伐採するのではなく電線が走らせてあるところも伐採されていた。管理されている山林であればここまでのことは行われないとのことであった。伐採されたところでは赤い実を付けたソヨゴの低木が多く見られた。用地内には石垣が組まれていることが多く見られた。石垣があることから北小松用地の山が里山として利用されていたことが良く分かった。滝川に大きな石などがみられたことからもわかるように、この土地は岩が大きめの石が多く、石垣を組む際はわざわざ石を運んでいたのではなくその場にあり人が持てる大きさのものを利用していたのだろうと推測された。実際にイノシシ除けとして造られた猪垣（ししがき）も大人一人でも運ぶことのできる大きさの石で組まれていた。猪垣はイノシシを通さないためのものであるため平坦な場所だけでなく、急傾斜のところにも組まれていた。傾斜部の猪垣の隙間から樹木が生えていることも多々見られた。

全体的に用地内の樹木は細いものが多く、少し貧相な印象を受けたが多様な植物や里山の名残（石垣や食用となる植物）が多く見ることが出来た。



写真１　北小松用地の様子



写真２　用地周辺のフェンス



写真３　比良げんき村からの景色



写真４　視察・探勝会の様子



写真５　滝川砂防ダム上流



写真６　砂防ダムから溢れる土砂や岩



写真７　砂防ダム下の様子

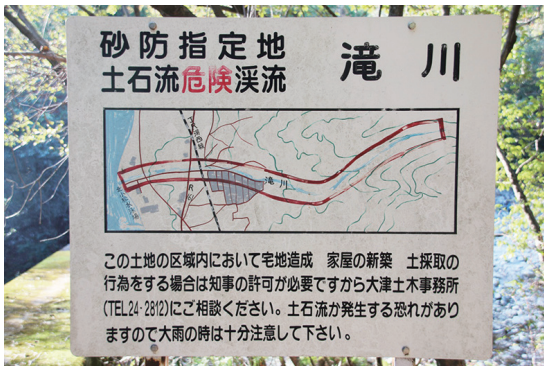

写真８　滝川の説明

写真９　大阪市の石杭





写真10　高電線鉄塔下の様子



写真11　高電線下の伐採様子



写真12　滝川左岸の様子



写真13　滝川に架かる橋



写真14　馬ヶ瀬国有林の立て看板



写真15　猪垣



写真16　長く組まれた猪垣



写真17　北小松用地（手前の山）